



文：高瀬徹朗 *Takase Tetsuro*

本誌放送アナリスト・ワンセグウォッチャー

2010年7月に最終報告書を提出した総務省「新たな電波の活用ビジョンに関する検討チーム」では、最終的に10社11案件のホワイトスペース活用特区を選定した。そのうちのひとつ「湘南ベルマーレ」は、今シーズンをJ1で戦ったプロサッカーチーム。ホーム・平塚競技場でのエリアワンセグサービスが他チームサポーターの間でも評判になっているということなので、今季最終節「湘南ベルマーレ対セレッソ大阪」(11月28日)を取材してきた

「ベルセグ」がJリーグの可能性を切り開く？

## 湘南ベルマーレの エリアワンセグ緊急レポ

### ユニークなコンテンツの数々

試合開始前、平塚競技場外周部にあたる総合公園には、エリアワンセグ実施を告げるブースが設置されていた。配っていたチラシは当日の番組ガイド。いわば編成表だ。

中身を見ると、試合前(11時～13時)の欄に「湘南フリースタイルバトル」「ハイ、ボラっち」「代表取締役、眞壁潔メッセージ」「エメルソン選手、川合GMインタビュー」「巡回授業、クラブからのお知らせ」とある。全体で15分程度ではあるが、なかなか充実したプログラムだ。

中でも人気コンテンツの呼び声が高いのが「ハイ、ボラっち」。湘南ベルマーレフットサルチームの選手で、リーグ得点王のボラ選手が、スーパーテクニックを伝授してくれるという内容だ。今回は第4弾にあたるらしい。

湘南ベルマーレはJリーグ以外にもフットサル、ビーチバレーなどのチームを持つ総合スポーツクラブだ。前出のボラ選手をはじめ、プロサッカー以外の選手がエリアワンセグに登場することは少なくない。ちなみにインタビューを受けている川合氏はビーチバレーのGMだ。

外のブースでも薄っすら映像受信はできるが、さすがにエリア外。そこでスタジアムに移動し、しっかりと映像を確認した。「民生用カメラで撮影した」((株)日立ソリューションズ東京産業本部第3システム部第1G兼放送通信ビジネスシステムセンター・渡邊浩史氏)というが、ワンセグで視聴するには申し分なくオリティだ。

観客席でエリアワンセグを見るサポーターも少なくない。最も苦戦が予想されるチャンネルスキャンは、湘南ベルマーレ公式ケータイサイトからの一発立ち上げという方式でクリア。サイトには冒頭紹介したチラシのQRコードから

飛べるが、そもそもサポーターの多くは最初からサイトをブックマークしているので、さほど問題はない。

試合中はスカパー！映像を用いた中継。データ放送には両軍スタメンと得点などが用意されている。本来ならばもっと細かな内容(試合経過など)を載せたいようだが、予算はかなり圧縮しているとのことなので、多くは望むまい。

### 「映像の時代」にできること

湘南ベルマーレ代表取締役の眞壁潔氏は、エリアワンセグ実施の狙いについて「観戦に来るお客様へのサービス充実」と語る。「場内FMなどのサービスも耳にするが、やはり今は映像の時代。映像によって情報を提供したかった」(眞壁氏)。

また、湘南ベルマーレの置かれている神奈川県は放送環境も無関係ではない。神奈川県は関東広域圏内であり、地元テレビ局はテレビ神奈川のみ。しかし県内には他のJクラブもあり、プロ野球団すら存在する。地域密着をうたったところで、必ず取り上げてくれるテレビ局は存在しないのだ。

手作り感あふれる映像コンテンツは、逆にいえば「放送局の手が入っていない」印象を強く持たせる。あえてプロの作り込みがないことで、妙な親近感すら覚えさせてくれる。コンテンツ制作はもちろん、湘南ベルマーレが全面的に協力している。

放送機材の多くは、本件に全面協力する日立ソリューションズの持ち出しだ。エリアをカバーするアンテナは一カ所のみで、送信設備も決して大規模なものではない。実際この目で見てみると「え、これだけ？」という規模の設備しかない。



試合前コンテンツはポータブルDVDで再生



アンテナはこれひとつでスタジアム内をカバー



試合中はスカパー！映像を放映。データ放送は試合前からあり

「思ったよりいろいろなことができた。これもすべて、周りのサポートあればこそ」(湘南ベルマーレコーポレートメディアオペレーショングループコーポレートメディアオフィサー・弓桁直人氏)。

スポーツクラブとメーカーが切り開いた、新たなファンサービスの形。これが真の地域活性化へとつながっていったとき、エリアワンセグは次のステップへと進むだろう。

